

# コロナ禍の学校生活における 新たな課題・取組・連携の可能性

和歌山大学教育学部附属 3 校  
教育相談コーディネーター  
公認心理師

藤田絵理子

本日お伝えしたいこと

コロナ禍における児童生徒の変化・課題

教育相談体制・関係機関との連携

地域連携支援による「命を守る取組」の展望

# 1. コロナ禍における児童生徒の変化・ 課題

# 和歌山大学教育学部 附属学校



小学校（498名）・中学校（420名）



特別支援学校（60名）

## 学校におけるコロナ禍の影響

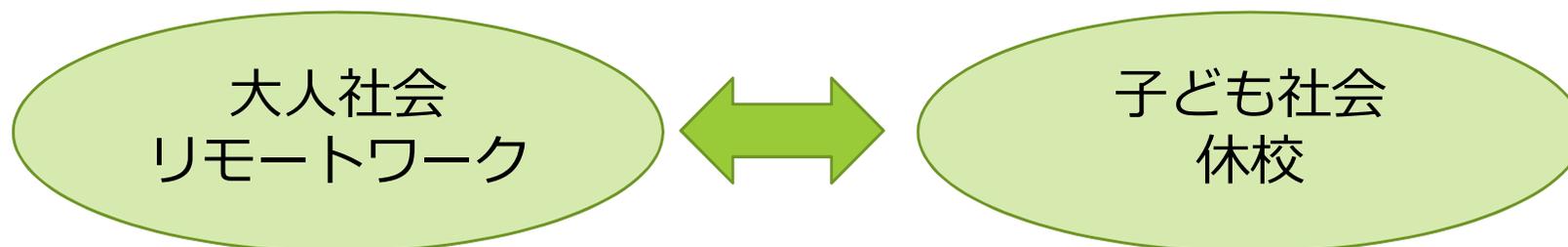
- 目に見えないウイルス → 不安・恐怖
- 長期化 → 先が見えない
- 社会全体の問題 → 逃げ場の無さ (大人も子どもも)
- 長期休校 → 初めての措置ー学びの多様化  
不登校児童生徒ー罪悪感の解消
- マスク生活 → 息苦しさ ↔ 社交不安の解消

# 大人社会の縮図としての問題

## 社会・心理・生物モデルからの考察

- ・ 家族の密集化（ロックダウン・休校）
- ・ 経済苦境、教育格差 — 子どもへの八つ当たり
- ・ 家族の不和 — 面前DV、虐待
- ・ 心理的な抑圧 — 孤独、家出、自傷行為

# ネット社会—大人との接点の増加



自由時間の増加 + 家庭のネット環境充実 + 手軽さ

ネット社会で関わりの機会増加      オンラインゲーム

SNS、チャット

⇔ オフラインの家庭環境      学びの格差

# ネット中心社会の問題

## 社会・心理・生物モデルからの考察

- YouTube見放題 情報氾濫・不相応な刺激 ↔ 家族関係の希薄化
- 居場所感の喪失、不安な家庭環境 ヤングケアラー
- 孤独感 → 消えたい願望 自傷など
- 自己肯定感の低さ（愛着不全） ↔ 承認欲求の高さ
- しんどさの共有 → ネット友に依存、ゲーム依存  
生活リズムの乱れ、不眠

# 当たり前が奪われる学校生活の継続 ストレス増加

感染予防の観点による学校生活の変化

- ・年間行事の中止、縮小実施→不全感・不満足感

思い出が無い学校生活

学校行事の多い時期—自殺者が少ない月間とリンク

- ・キャリア選択・社会的経験機会の喪失→失望感

オープンキャンパス中止、県外への外出禁止

- ・既往症のある家族への配慮→ 自主休校生徒への対応

## 食への影響→ 摂食障害予備軍の増加

### 昼食を食べない生徒の増加

→3食カップラーメン生活、冷たいお弁当がいや

前を向いて話さずに食事、緊張感の高い教室、臭いも気になり食べられない

コロナ太りを解消したい→ダイエットで食べない

家族の経済危機・家族のしんどさ→ お弁当やお金を持たせてもらえない

⇔たっぷりの睡眠、6月はじまりの好影響も。

## 2. 教育相談体制・関係機関との連携

# 子どもを多角的に支援する視点



# 多様な家族背景要因へのアプローチの重要性

家族背景の多様さ

学校での指導・支援

教育 < 福祉・医療・心理面の支え

地域連携—多職種による指導支援の有効性・必要性

開かれた学校→ 学校が抱え込まない

年齢・発達に応じた指導支援  
障害・病気などへの理解

学校における児童生徒の共通理解を促進する  
情報収集・見立てを複数の目で行う

「チーム学校」機能（教育・医療・心理・福祉）活用

→血液（コミュニケーション）の通った学校

心臓となる管理職やコーディネーターに情報集約

校内の多職種活用によるケース会議の開催→PDCAサイクル

校内連携の充実 → 校外連携へ  
信頼関係とリスペクト

校内連携体制の充実 (5W1Hを共通理解)

- どのタイミングで (いつ)
- 誰が (キーパーソンの決定)
- どこで (場所)
- なぜ (指導・支援目標の模索)
- 何を (内容)
- どのように (伝え方の模索)

# 不登校支援

本人・保護者・親子セットでアセスメント・支援

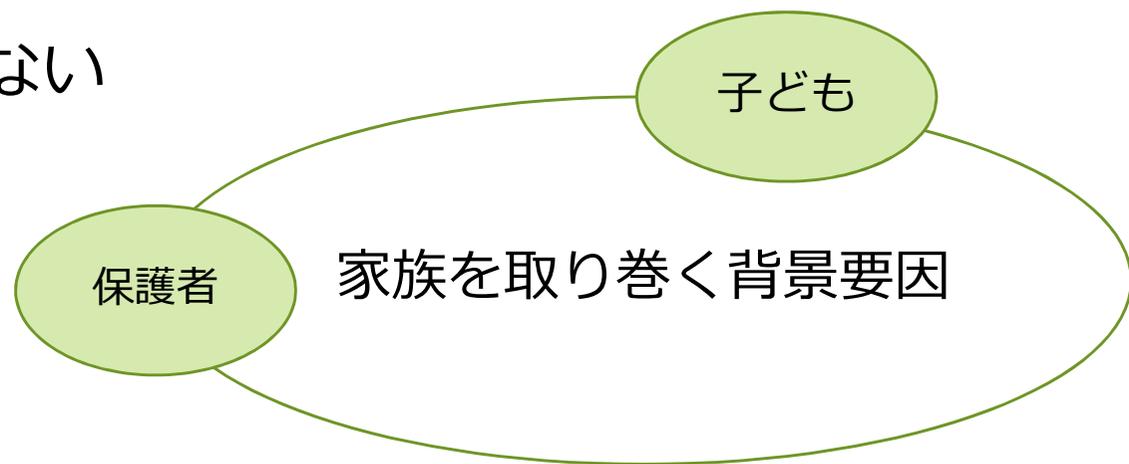
本人 **+** 周囲（学校生活・親子）との関係性

背景情報の収集・分析

支援開始タイミングを見逃さない

複合的な支援

適応指導教室活用、医療連携



# 生徒自身による自己理解の啓発・促進

複合的な要素が絡んだ家庭が増加しているという**心理教育**

- ・ 発達の課題を抱えるなどで、生徒自身の生きづらさ
- ・ 親自身の不安定さ（PMS、精神障害、虐待などを含む）の影響

ネット・ネット友からの情報収集に、**正確な知識を補う**

→ 正しい情報提供の場—教員 **+** 専門家（sc）、相談室の役割

発達障害、精神障害、性についてなど情報収集のための書籍所蔵

漫画、ネット記事（HSC、微笑みうつ病）を自分で、教員と一緒に読む

**ネット、書籍+ピア、大人の介入→居場所感の保障**

# 虐待の問題への支援

本人・保護者・親子セットでアセスメント・支援

本人 **+** 周囲（学校生活・親子）との関係性

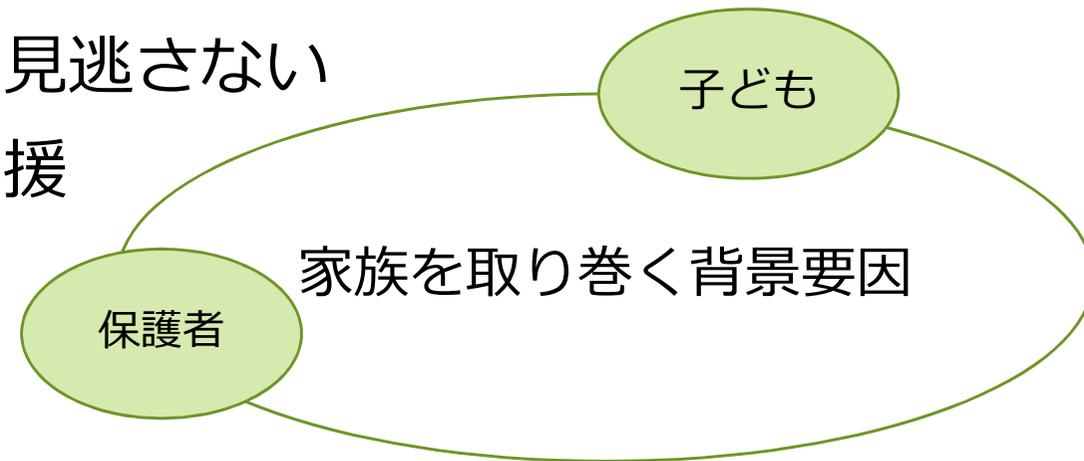
背景情報の収集・分析（記録の蓄積）

サイン、支援開始タイミングを見逃さない

複合的な連携・継続・見守り支援

児童相談所、こどもシェルター

医療連携



# 感情コントロール（暴力）への支援

本人・保護者・親子セットでアセスメント・支援

本人 **+** 周囲（友人・親子）との関係性

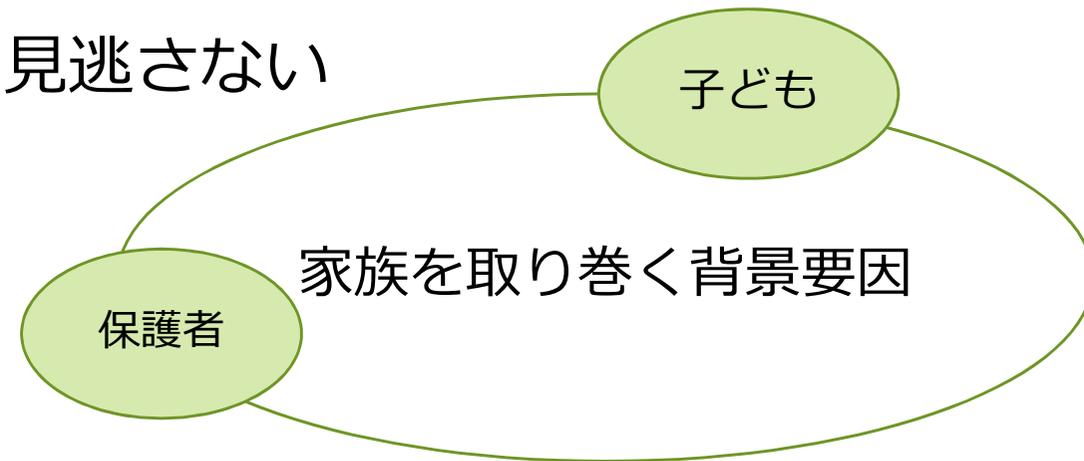
背景情報の収集・分析（記録の蓄積）

サイン、支援開始タイミングを見逃さない

複合的な連携支援

児童相談所、法務少年支援センター

医療連携



## SNSをめぐる課題への支援

本人・保護者・親子セットでアセスメント・支援

本人 **+** 周囲（友人・親子）との関係性

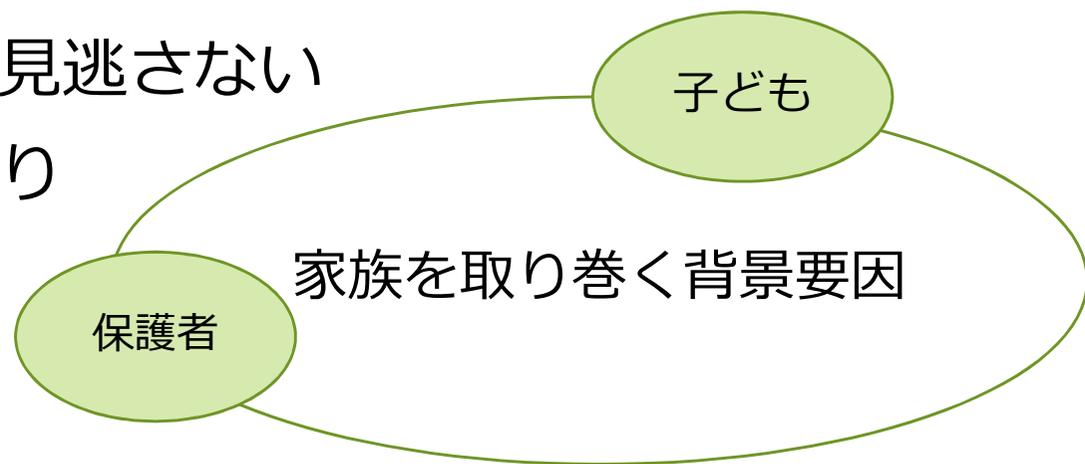
背景情報の収集・分析（記録の蓄積）

サイン、支援開始タイミングを見逃さない

複合的な連携・継続支援・見守り

児童相談所、法務少年支援センター

精神保健福祉センター、警察、医療連携



# 連携支援のチャレンジ

## 信頼関係とリスペクト

学校外専門機関との連携→連携機関の特徴を知る  
校外連携体制の充実（5W1Hを共通理解）

- どのタイミングで繋ぐか（いつ）
- 誰が（窓口、キーパーソンの決定）
- どこの機関に相談するか（繋ぐ機関の選定）
- なぜ（指導・支援目標の模索）
- 何を（相談内容、主訴の選定）
- どのように（相談方法の模索）

# ライフステージを通じた支援

切れ目のない支援（長期的・縦断的）の必要性

→ 進学先との情報共有

校内、校外連携の重要性

→ 支援システムの違いを活用

多層構造（深化・横断的）の支援

不登校—虐待—発達の課題など**継続的・複合的**支援の必要性

### 3. 地域連携支援による「命を守る取組」 の展望

# 和歌山における地域包括的支援の実践

地域における共通課題（性、いのちの大切さ）を  
地域支援ネットワークを構築することで明確化

性教育では

県内の専門家（50名）＋行政・大学生等（50名）の協力  
＝「地域包括支援モデル」

# 学び（教育）なくして、変化なし 生活の質を上げるための「性」教育

関係性・価値・権利・文化・ジェンダー理解（性別  
違和）包括的性教育 + 保護者の協力・理解

→身体や心を守る教育・人権教育

→生活の質、幸福感の向上、性の自己決定権の獲得

「学校教育での実践基盤となるべき教育」

**SDG 5** ジェンダー平等の学習 女子のパンツ制服

（2021年4月～）

# 子どもの健全な「性」や「生」に関する成長発達を促すために

- 世界の性教育の流れーユネスコ（2009）  
包括的性教育の実践・研究（2015～）
- **sos発信プロジェクト**ー和歌山大学附属中学校（2021）  
3部構成
  - ① 当事者、高校生によるワークショップ  
（屋根瓦方式採用）
  - ② 精神科医より正確な知識編 ビデオレター
  - ③ 心理士より実践編 ワークショップ  
NHK 関西熱視線ー自殺予防教育 放映

## SOSを出せない中学生2年生の実態

SOS発信プロジェクトワークショップ（3回）125名 ビフォーアフター

苦しい気持ちの時、一人で我慢してしまう方ですか？

ビフォーアフター はい 50.9% いいえ 49.1%

今後、自分が危機をむかえた時にSOSを発信できそうですか？

アフター **出せる 86%** やや難しい 14%

**SOS教育は必要**だと感じた **97.8%**

## SOS発信プロジェクトの特徴

- ① **ロールモデル（当事者高校生）** から、sosの出し方を学ぶ
- ② **精神科医（心の専門家）** から、ビデオレターで  
中学生に必要な「メンタルヘルス知識」、  
「sosを出す必要性」を学ぶ
- ③ **他者（同級生）との意見交換、関係性の中で**、心理士と一緒に  
「メンタルヘルス」、「sosを出す方法」を自分の学びとして考える

**経験者の話—正確な知識—じぶんごととしての学び**

## メンタルヘルスの話題を身近なものに アフターフォロー体制を明確に

### SOS発信プロジェクト後、生徒の様子

- ・自分の気持ち、心に関する言語（身体）表現が激増した。
- ・親とのコミュニケーションが活発になった。
- ・ストレス対処法として、書き出すなど、しんどさを可視化し、  
そのことで楽になったと感想を述べる生徒が増加した。
- ・友人のしんどさに、共感的に関われるようになった。
- ・心理学に興味を持った生徒も増えた。

# 自己理解・他者理解の促進教育

(2019年度～中学生向け、2020年度～小学生向け)

生徒の生きづらさの軽減のため

- ①自分を理解する
- ②相手（他者）を理解する

希望対象者（保護者の同意）向け、SCの協力、  
放課後にワークショップ、全16回シリーズ実施  
→自己表現、コミュニケーション改善、  
感情コントロール、対人トラブルの減少

# 地域課題解決を若者から発信できる 寛容な地域風土

ー和歌山での多職種専門家で、若者応援

## 高校生発案によるメンタルヘルス対策 プロトタイプ of 提案

- ・ SOS発信プロジェクト マイプロ・ベストラーニング賞 (全国6位)

屋根瓦方式採用→持続可能な学び (次世代につなぐ)

ワークショップの台本を後輩が受け継ぎ、次年度は後輩が下の学年に実施する方法  
→学びの意欲・責任感

- ・ ラインアカウント「コトバのなる木」

ストレスチェック + ポジティブ変換

# 若者目線メンタルヘルス改善に向けての発信

(学生団体 WAKA × YAMA プロジェクト 2020)

チーム名: 11.Fulgari	学校名: ██████████ 高等学校
チームメンバー: ██████████	
インタビュー実績	
<b>課題</b> ・近年インターネットの普及に伴い SNS上でのトラブルが増加している。 ・友人や知り合いがSNS上で嫌がらせを受けているのを見たことがある。  ↓ ↓ ↓ ◎高校生や大学生でSNSを使っている人がインターネット上の見知らぬ人からの否定的なコメントによってストレスを受けていること。	<b>アイデア名:</b> LINE公式アカウントの開設 <b>概要:</b> LINE公式アカウント「コトバのなる木」 ◎機能    ① <b>ポジティブ変換</b> ユーザーがマイナスなコメントを送るとポジティブに変換する。 ② <b>ストレス診断</b> ストレス度数によってストレス解消法や病院などを紹介する。

まとめ

# よりよく生きる教育・支援

生きる ↔ 生きることの困難さへの教育・支援  
日常生活・ライフイベントへの教育・支援

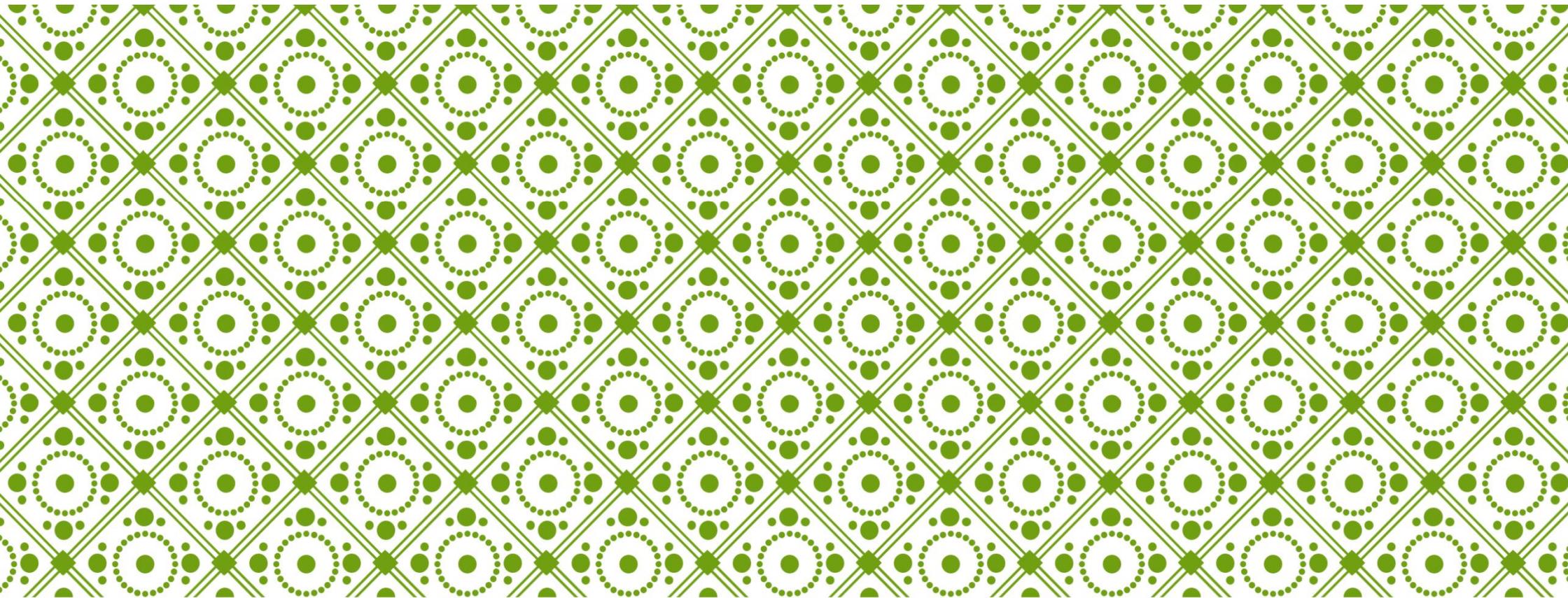
子どもたちの課題 = 地域の課題の縮図  
地域包括的に多職種の専門機関が  
課題解決のために連携・地域循環型若者支援  
→ 豊かな包摂社会の創生

## おわりに

### コロナ禍の時代

- ・ 女性や子どもの生きづらさの増大
- ・ SDGs目標 (5・ジェンダー平等を実現しよう)

＜地域支援・多職種ネットワークの中で  
子どもたちの成長を支援する重要性の高まり＞  
学びは生涯にわたるもの  
よりよく生きるため**教育の促進**が必要



## ご清聴ありがとうございました

本研究は、「中学生自死生徒の背景状況の分析と予防教育モデルの作成」  
JSPS科研費 JP20K02998の助成を受けて行っています。

